

私たちはいま 「歴史の圧縮過程」のなかにいる

立憲フォーラム・戦争をさせない1000人委員会 共催

6.19 院内集会

6月19日(水) 午後5時～ 参議院議員会館1階 講堂

講師:有田芳生さん (ジャーナリスト・前参議院議員)

▼自民党の裏金問題。政治資金規正法改正が「ざる法」として問題あることは国会審議や報道でも明らかになった。では2022年4月に安倍晋三元首相が制度をやめようとしたのは「善意」だったのか。そうではない理由を語る。23年になると岸田文雄首相も裏金問題を知ることになり、解散・総選挙を模索、11月7日には自民党総裁室である人物と面会した。経済は円安。いまだアベノミクスの「負の遺産」に国民は苦しめられている。安倍政治は終わっていない。



▼一時は大きく報道された統一教会問題も再び空白期間に入った。だが次期総選挙、参院選(25年)の一争点にしなければならない。統一教会は1986年から「秘書養成講座」を開いて、国会議員の公設秘書、私設秘書をいまに至るも派遣してきた。その狙いは政治への浸透だ。しかし教団の過大評価も過小評価も避けなければならない。「オウムの次は統一教会」(警察庁幹部)はなぜ消えたのか。

▼歴史には「圧縮過程」がある。ときに遅く、ときに激しく変化していく歴史にあって、いま私たちは大きな転換点に立っている。このチャンスを逃さずに政権交代の萌芽を育て実らせよう。「オール沖縄」の精神を全国に。「腹8分目」か「腹6分目」。「どういう表現なら人々に伝わるか、とそればかり考えている」(翁長雄志元知事側近)。「もう一つのこの世を」(石牟礼道子)。多様な表現でまずは重要な闘い一都知事選挙の勝利を。

無料です。どなたも参加できます。新型コロナ感染症対策の上、ご参加ください。

◆院内集会後の「国会正門前 抗議行動」にも、ご参加ください。
午後6時30分～ 国会正門前 総がかり行動主催